

『東京 2020 オリンピック・パラリンピック競技大会に関する提言』 (東京 2020 オリンピック・パラリンピック調査特別委員会)

1 調査の目的

東京 2020 オリンピック・パラリンピック調査特別委員会は、「競技開催を本市の復興と持続可能な発展につなげること」「競技開催を子供たちの夢や希望につなげること」の2つを調査事項とし、調査を行った。

2 市に対する提言

復興五輪として開催される東京 2020 大会に対する興味や関心を高め、市民一人一人がオリンピック・パラリンピックに参画し、大会閉会後も感謝の気持ちを胸に刻み、開催都市としての誇りを持ち、笑顔と元気を後世に伝え続けるために提言する。

- (1) 高校生などの若者が東日本大震災で受けた世界中からの支援について学び、そのことに対しどのように感謝の気持ちを伝えるかを考える機会こそが、復興五輪として開催される東京 2020 大会に対する興味や関心を高めることにつながることから、学校などの関係機関と協力しそのような機会を数多く設けるべきである。
- (2) 東京 2020 大会が近づくにつれ、オリンピック・パラリンピックへの機運が高まりを見せ、若い世代が主体的に取り組む活動が活発になることが期待されることから、それらの取り組みの多くが組織委員会の参画プログラムとして承認されるよう必要な支援体制を整え、市民一人一人がオリンピック・パラリンピックに参画する仕組みを早急に構築すべきである。

(3) 東京 2020 大会により、本市にボランティア意識の醸成やスポーツ合宿地としての地位向上、東日本大震災及び東京電力福島第一原子力発電所事故による Fukushima のイメージの払拭など、長期にわたりポジティブな影響がもたらされることが期待されることから、これまでの支援に加え、復興五輪として開催される東京 2020 大会が世界からの最高のエールとして市民一人一人が感謝の気持ちを胸に刻み、開催都市としての誇りを持ち、笑顔と元気を後世に伝え続けることが本市のレガシーであることを永続的に意識した市政運営に努めるべきである。